

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	ハピネス国際放課後等児童デイサービス（放課後等デイサービス）		
○保護者評価実施期間	R7年1月6日		～ R7年1月18日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	11	(回答者数) 11
○従業者評価実施期間	R7年1月6日		～ R7年1月18日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	12	(回答者数) 12
○事業者向け自己評価表作成日	令和7年2月19日		

○ 分析結果

公表日 令和7年2月21日

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	様々な言語による教育・支援を行っている。	どの言語でもコミュニケーション能力を高めるサポートを行っています。また保護者の方の母国語に合わせてお話しできるので、より詳しく家での様子や保護者の希望に沿った計画を立てることができます。	言語の偏りがないように2か国語でのコミュニケーションや発音練習を行いたい。
2	子ども一人一人に寄り添い、細かい対応ができる。年代ごとにグループを分けているのでその年にあった活動・支援を行っている	曜日ごとに活動内容や支援内容を変えて活動が固定化されないように工夫している。来所前にスタッフでミーティングを行い、1日の流れや来所する子どもの課題や対応方法などを話し合っている。	子どもたちの将来につながるようブラッシュアップし続ける。
3	安全管理の徹底	社内研修を行い、療育中、休憩中、送迎時の危険箇所の把握をおこなっています。来所前のミーティング時にスタッフの配置などを確認し、安全を確保しています。	スタッフそれぞれ危険性の感じ方が違う為、理解しているだけでなく常にミーティングで危険箇所の確認を行う必要がある。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	言語の壁によりコミュニケーションが難しい場合がある。	2か国語が話せる指導員が多くないため、学校などでコミュニケーションにすれ違いが起きることがある。	できるだけ2か国語話せる指導員が、同行するようにする。
2	工作、運動、活動を行う時間が異なるため集団活動を行うのが困難。	利用時間の差、下校時間の違い、宿題の量の差、工作・活動を終わらせる時間の差があるため	集団活動を始める時間を設定し、それまでに個人の支援（宿題など）を終わらせるよう時間を設定する。
3	学校や発達センターなどと連絡・情報共有し、さらに利用者に合った計画を立てていきたい。	学校と連携をとり、子ども達の課題を共有し対応する事で子ども達にとってより効果の高い療育が行えると思います。	送迎時に学校の先生とその日の様子等の情報交換はあるが送迎時間の都合や個人情報や防犯対策の為、連携が取りづらい状況があります。